

PhotoStage

PhotoCulture

● CONTENTS ●

11月注目の写真展 Topics / クローズアップ=大沢利裕・小杉紀男写真展 / 訪問・72GALLERY / コンデジの進化も凄まじい / イチ押し写真展・岡田紅陽没後40周年回顧展 / キヤノンがプロ向けプリンター / フレームマン・ギンザ・サロンで新機軸 / ギャラリーで立ち話 / 11月写真展スケジュール

11



ギャラリーアートグラフ
大沢利裕写真展「白鳥の飛来地・冬の瓢湖」

gallery bauhaus
小瀧達郎写真展「VENEZIA」



フレームマン・ギンザ・ミニギャラリー
小杉紀男写真展



オリンパスギャラリー東京
山岸伸写真展「瞬間の顔 Vol.5」



月刊フォトステージ no.118 ¥200

(税込・送料別)

朝日に向かって飛翔する白鳥



なっている。「その朝と夕方が撮影のチャンスです」と大沢さん。撮影を続けるうちに白鳥の生態も分かってくる。「見ていると白鳥さん達は本当に面白いです。朝、日が明けると家族同士で首を上下に振りながら大きな声で叫び出します。次に羽をばたばたさせると飛び立つ合図です。飛び立つ時は風に向かって水面を50メートルほど助走しながら飛び立って行きます。みんな必死です。グループで鳴いている時に他のグループとぶつかろうものなら、取っ組み合いの喧嘩が始まります。噛みつき

2年前に「ザトウクジラ〜故郷への回遊〜」のタイトルで

大沢利裕写真展「白鳥の飛来地・冬の瓢湖」

きもOKです。負けた方は追っかけられ血相を変えて逃げて行き

個展を開いている大沢利裕さんが、今回は白鳥を題材にして写真展を開催する。大沢さんの基本的なテーマは稀少動物の保護。

稀少動物の保護を写真で訴えて

ます。そして白鳥さんには表情があります。面白いですね！！ここ瓢湖では幼鳥もすでに親と同じ大きさになっています。違うのは全身と口ばしがグレーな所です」と、なんと白鳥への愛情に満ちた観察だろうか。

「私は日常、環境保全の業務に従事しており、余暇では野生動物の撮影を行なっています。昨今は環境・生物多様性の保全がトレンドにある中、稀少動物保護を発信したザトウクジラの写真展を開催しました。それに続く第二弾となる写真展で、野鳥保護への貢献を目的に、来場者数に応じて『日本野鳥の会』に寄付をします。今後もこうした活動を通して野生生物の保護に、貢献していきたいと考えています」と、写真展の開催にも重要な目的を込めている。

この写真展は11月5日～10日に銀座のギャラリーアートグラフで開く。なお前回のザトウクジラの大沢さんの作品は、東京海洋大学の教科書の表紙に使われ、座間味ホエールウォッチング協会に貸し出しており、国美藝術展に出展し秀作賞（優秀作品賞）に選ばれた。写真展が作る連環といえようか。

同じ野生生物でも、ザトウクジラから白鳥とは海から陸へと大きな転換である。「私の地元新潟県にある日本有数の白鳥の飛来地、冬の瓢湖を取材しました」と分かれば納得がいく。大沢さんの地元なのである。

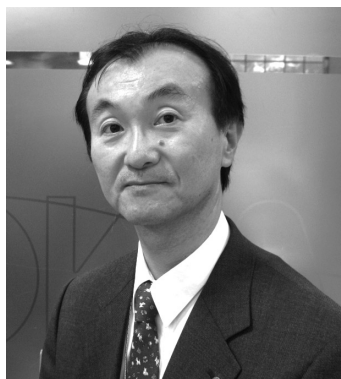
この写真展は11月5日～10日に銀座のギャラリーアートグラフで開く。なお前回のザトウクジラの大沢さんの作品は、東京海洋大学の教科書の表紙に使われ、座間味ホエールウォッチング協会に貸し出しており、国美藝術展に出展し秀作賞（優秀作品賞）に選ばれた。写真展が作る連環といえようか。

同じ野生生物でも、ザトウクジラから白鳥とは海から陸へと大きな転換である。「私の地元新潟県にある日本有数の白鳥の飛来地、冬の瓢湖を取材しました」と分かれば納得がいく。大沢さんの地元なのである。

冬の瓢湖とはどんなところなのだろうか。「この瓢湖には、毎年シベリアから6000羽以上の白鳥が訪れ、地域をあげて白鳥の保護に取り組んでいます。朝日が昇る頃から約1時間、白鳥は家族単位で次々に飛び立ち、近くの田んぼで餌を食べて、夕方に湖に戻って来ます。また鴨類はその10倍飛来し、その鴨を狙ってオオタカが訪れます。他に、多数の猛禽も生息し、冬の瓢湖とその周辺を訪れる野鳥の日常を取材しました」

まさに野生生物の宝庫のようなところに

この写真展は11月5日～10日に銀座のギャラリーアートグラフで開く。なお前回のザトウクジラの大沢さんの作品は、東京海洋大学の教科書の表紙に使われ、座間味ホエールウォッチング協会に貸し出しており、国美藝術展に出展し秀作賞（優秀作品賞）に選ばれた。写真展が作る連環といえようか。



大沢利裕さん



早朝の冷え込みに耐える白鳥たち